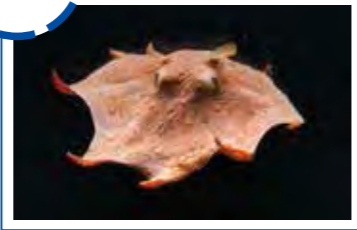




見どころ



**メンダコ** *flapjack octopus*  
 水族館一番の人気者。足の半分以上を大きな膜で覆われ、パラシュートのような形をしたタコ。他のタコと違って、スミを持っていない

なぜ沼津で深海魚？  
**日本一深い湾**  
**駿河湾にすむ生き物たち**



駿河湾は深海生物の宝庫

沼津市の目の前に広がる駿河湾。その最深部は2500mにも達し、日本一の深さです。湾内には約千種の魚類が生息すると言われています。そしてその中には不思議な姿をした深海魚も含まれているのです。

一般に、水深200mより深い海に住む魚類を深海魚と呼んでいますが、日本一の深さを持つ駿河湾には多種多様な深海魚が生息しており、まさに深海生物の宝庫と言えます。

深海は非常に低い温度と高い水圧で、太陽光の届かない暗黒の世界です。深海魚はこの極限

駿河湾の神秘  
**深海魚**



日本一深い湾である駿河湾には、深海という太陽光の届かない世界で独自の進化を遂げた深海魚が生息しています。近年の深海魚ブームの火付け役とも言える沼津港深海水族館や、深海魚のまちとして知られる戸田地区など、沼津には深海魚の魅力が堪能できる様々なスポットがあります。

今回の特集では、観光資源や食などの分野でめまづの宝トコロにも選ばれ、注目を集める深海魚の魅力に迫ります。

◎広報広聴課 ☎055・934・4703

深海魚豆知識

日本の深い湾ランキングは？

1位	駿河湾	2,500 m
2位	相模湾	1,600 m
3位	富山湾	1,200 m

赤色の深海魚が多いのはなぜ？

深海で赤い光は吸収されやすいので、海の色にとけ込んだように見え、保護色の動きをするためです

資料：沼津港深海水族館

全国から注目される  
 ディープなスポット  
 沼津港深海水族館

空前の深海ブームと言われる近年では、NHKのダイオウイ

月までの底引き網漁の期間は、かなりの日数で展示することができますのが特徴です。メンダコの飼育日数は27日が最高記録なんですよ」と水族館の立地の良さを話します。

「水族館では、お客様からのもっと知りたいという声にこたえて、新たに透明骨格標本コーナーを作ったり、『沼水ラボ』という深海を学べるコーナーを設けたりするなど、様々な工夫をされています。深海生物を自当に、県外からも多くの方が訪れてくれるので、沼津港のにぎわいにもつながると嬉しいですね」と山口さん。

沼津港まで足をのばせばすぐに会える深海生物。ぜひ一目見に行ってみませんか。

沼津港深海水族館  
 飼育担当 山口真由さん



すぐに水族館に運べることで、そのための状態が良いうちに展示することが出来ます。水族館の一番人気のメンダコも、9月から

沼津港深海水族館  
 シーラカンス・ミュージアム



シーラカンスを始め、希少な深海生物に会える。隣接した飲食店モール「港八十三番地」では様々な深海魚料理も楽しめる

DATA

◎千本港町83 ☎10時～18時(夏期は19時まで) ㊟なし(設備点検による臨時休業あり) ㊟大人1,600円、小・中学生800円、4歳以上400円 ☎055-954-0606



イガグリガニ *Lithodid crab*

栗のイガのようなトゲで体を覆われているためその名がついた。実はヤドカリの仲間



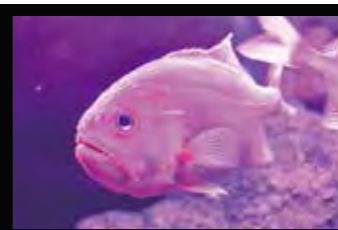
オウムガイ *Chambered nautilus*

4億年も前から姿を変えずに生きているため「生きている化石」と呼ばれる



ダイオウグソクムシ *Giant isopod*

世界最大のダンゴムシの仲間。「海の掃除屋」と呼ばれ、海底の動物の死骸などを食べる



ハシキンメ *Blueberry roughy*

大きな口で小魚やエビ等を食べ、最大30cmほどになる。沼津ではゴソと呼ばれる



タカアシガニ *Japanese spider crab*

脚を広げると3mを超えることがある世界最大のカニ。戸田地区の名物として有名

※沼津港深海水族館で展示されている生物は、駿河湾を中心に海外からも集められています。

沼津港深海水族館で出会える深海生物たち